

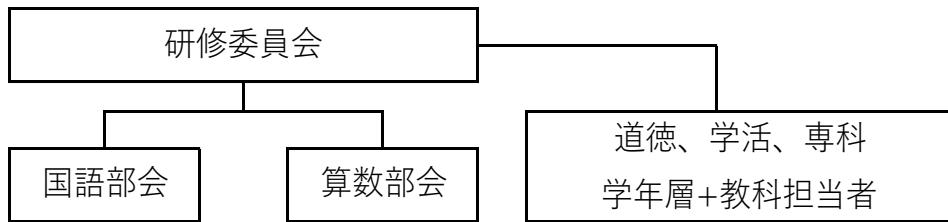
令和7年度 研究推進について

小野市立大部小学校

1 研究テーマについて

主題 「主体的・対話的で深い学びの創造」
～書くことを大切にし、学び合い高め合う授業づくり～

2 研究組織



3 重点的に取り組むこと

- (1) 国語科、算数科、道徳科、特別支援教育の視点での授業研究
- (2) 国語部会、算数部会の設置
 - 全員が国語部会・算数部会のどちらかに所属し、研究をすすめる。
 - 「書く」と「対話」から、深い学びへつなげる授業づくりに取り組む。
- (3) 書くこと・ノート検定の指導
 - ノート検定で基本的なノートの書き方を定着させていく⇒国語、算数で実施
- (4) 対話・言語活動の充実
 - ペア学習、グループ学習の効果的な取り入れ方を研究する。
 - マニュアルカードの活用の仕方の交流し合う。
- (5) 評価（主体的に学習に取り組む態度）の仕方についての研究
 - 授業後に書くふり返りから、主体的に学習に取り組む態度の評価につなげるための基準を検討する。
 - ふり返りの交流を行う。
- (6) 読書推進・読書貯金カードの取組
 - 図書担当、図書委員会主体で取り組む。子どもたちが貸出冊数を可視化できるものを作り、読書推進を図るための取組を行う。

4 共通理解事項

- (1) 「大部っ子学びの約束」「声のものさし」「話型・聴型」を教室内に掲示
 - 『学びの約束の重点項目』を共通理解して取り組む。
 - その場に応じた「声の大きさ」で話す。(声のものさし・文末)
 - 話を聞くときに反応する。(うなずく・返事をする・1回で聞く)
 - 名前を呼ばれたら大きな声で返事をする。
 - 教室に掲示し、子どもたちの意識化を図る。
- (2) 「ひとり学び」を生かした「みんな学び」の推進
 - 授業における「ひとり学び」とは…
 - ・課題について自分の考えを書く。
 - ・意見と根拠を区別して書く。
 - 「みんな学び」では、ひとり学びの発表、質問、答えを伝え合い、課題解決のため対話をを行う。
- (3) 学び合い(話し合い活動)の充実
 - マニュアルカードを活用し、グループ学習に取り組む。
- (4) I C T機器、クロームブック活用の工夫
 - 「分かる授業」「児童の興味・関心を引き出す授業」に効果的な I C T活用を工夫する。
- (5) 音読活動の充実
 - 朝の会で音読の時間を設ける。
 - 年に2回ほど学年層で音読交流会を行う。
- (6) 家庭学習の充実
 - 授業とリンクした学びを推奨する。
 - 「家庭学習 MY チャレンジ」の習慣化を図る。
 - 「書く」活動を(ふり返り日記や作文等)積み重ねる。